

【構想の名称】(タイプA-1)

北東アジア地域における政策研究コンソーシアム

【構想の概要】

韓国KDIスクールと清華大学公共管理学院との間で、大学院レベルのダブル・ディグリーや単位互換制度を利用した留学生交流を行う。本学を含めて3大学ともに、政府機関・民間企業の中核的なミッドキャリア職員を学生として受け入れており、彼らに対して社会科学を中心とした国際水準の公共政策教育を行う。そこでは、科学的合理性に根ざした現実的課題解決能力という個人的能力を涵養する一方で、学生同士が同じ科学的合理性を共有することを通じて真に相互信頼できる人的ネットワークを形成させて組織的能力も高める。これにより、日中韓の政策立案・管理運営能力の高度化と、アジアと世界の知的ネットワークにおけるハブ形成を目指す。

■ プログラムの目的・養成する人材像

○ 科学的合理性を獲得する公共政策大学院教育と人的ネットワーク構築

国内外の政府・民間のミッドキャリア職員を対象とした(1)課題解決型の社会科学横断的な大学院教育による個人的能力形成と、(2)学問的基礎を共有する政策プロフェッショナル同士の信頼に裏打ちされた人的ネットワークの形成を目指す。

〈国際プログラムの授業〉



■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

○ 国際水準の大学院教育

理論と実証の双方から公共政策課題に科学的に接近し、ケース・スタディー形式で理論と現実のギャップを学ぶ。さらに、セミナー形式の授業を通じて、このギャップを埋めるための実際的な選択肢を提案するためのスキルを習得する。

○ 厳格な成績管理と学位授与プロセス

絶対評価に加えて相対評価(GPAシステム)を用いることで、成績評価に対して客観性を持たせて国際的に通用する学位を授与する。一部の上級科目については、コア科目における十分に高いGPAを獲得したもののみが受講できるシステムとし、クラスにおける学生の能力水準を一定以上に保って学習効果を高める。

○ 将来有望なミッドキャリア学生間で相互に作用するピアプレッシャー

同様のキャリアをもつ国内外の社会人学生間で働くピアプレッシャーを利用して、学生の努力を最大限に引き出す。一方で、政策課題に関して問題意識を学生間で共有しつつも、それに対して多様な意見・アプローチで議論を戦わせることで、幅広い視点を涵養する。

〈学位記授与式〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ミッドキャリア職員修了生が切り拓く新しい公共

ミッドキャリア職員が本課程を修了し復職した時点から、それまでに学んだ知識と経験を利用して様々な政策課題に取り組むことができる。加えて、本学で培った人的ネットワークは、修了生を国際的に高い競争力を持つ高度職業人となることを可能にする。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 東京で「留学生の方が多数」の環境で学ぶ

学生全体の6割が留学生という国際的環境で、日常的に英語に触れ、社会的背景の異なる学生間でのコミュニケーションをとることが、日本人の内向き指向を打ち破る。英語で開講される国際水準の講義や英語の語学クラスもそれを強力に支援する。

○ 多様な留学オプションの提供

本事業の対象である中国・韓国といったアジア諸国だけでなく、欧米の大学との間でも学生交流の機会が提供されている。身近にいる同僚学生から刺激を受けて、留学や現地調査等を行う強い動機が働くことが期待できる。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

2年間の修士課程(MP2)プログラムの学生を中心として、1年目を本学で学び、2年目をダブル・ディグリーや単位互換制度のもとで韓国・中国で学ぶ。その他にも、短期の研修プログラムや、博士課程学生による現地調査といった形式での留学生派遣を柔軟に組み合わせて日中韓3ヶ国の交流を促進する。

○ 外国人留学生の受入れ

一切を英語で教育する1年間の修士課程(MP1)プログラムを中心に、ダブル・ディグリーや単位互換制度を利用して留学生を受け入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	0	10	10	10	10
学生の受入	0	10	10	10	10

大学の世界展開力強化事業 取組実績 政策研究大学院大学

【構想の名称】(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program)

北東アジア地域における政策研究コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

科学的合理性に根ざした現実的課題解決能力という個人的能力を涵養する一方で、学生同士が同じ科学的合理性を共有することを通じて真に相互信頼できる人的ネットワークを形成させて組織的能力も高める。これにより、日中韓の政策立案・管理運営能力の高度化と、アジアと世界の知的ネットワークにおけるハブを形成する。

【構想の概要】

韓国KDIスクールと清華大学公共管理学院との間で、大学院レベルのダブルディグリーや単位互換制度を利用した留学生交流を行う。本学を含めて3大学ともに、政府機関・民間企業の中核的なミッドキャリア職員を学生として受け入れており、彼らに対して社会科学を中心とした国際水準の公共政策家教育を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ KDIスクール及び清華大学との間でダブル・ディグリー及び単位互換制度についての詳細の検討

平成24年秋からの本格的な学生交換の開始を目指して、3学問での単位・学位認定方式についての枠組みを決定し、受入れスケジュールについても可能な限り柔軟に対応できる形で決定した。

○ 学生交流の促進のためのサマー・プログラムの検討

単位互換の形での学生交流を、長期的なものだけでなく比較的短期的なものでも実現できるように、サマー・プログラム形式での教育に関する取り組みについて検討することにした。平成24年の夏学期期間に、KDIスクールで開催することを協議した。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈 Ph.D. Seminarの様子:KDIスクール 〉



■ CAMPUS Asia Ph.D. Seminarを開催 (ソウル・KDIスクール)

平成24年3月14日、韓国・KDI School(KDIS)においてOne-day Seminarを開催しました。GRIPS Ph.D.学生4名がKDISの教員・学生を聴衆として研究報告を行いました。KDISの学生と活発な意見交換や質問が飛び交い、プレゼン時間を短縮し、ディスカッションに時間を割くなどの工夫が必要なほど非常に活気のある内容となりました。

また午後から園部GRIPS教授による開発途上国の生産性に関する特別講義が行われ、教員・学生間で活発な質疑があり、非常に有意義なものとなりました。

〈 One-day Seminarの様子:清華大学 〉

■ CAMPUS Asia One-day Seminarを開催 (北京・清華大学)

清華大学(北京)にてOne-day Seminarを平成24年3月28日に開催しました。中国のNGO研究の第一人者でもある清華大学Wang教授より、“The Development of China's NGO and the research of the NGO Institution”というタイトルで、中国のNGOの発展と現況についての講義頂きました。さらに、清華大学のXing助教授からは“Public Policy Formulation Process in China: 12th Five-year Plan as an Example”というタイトルで、中国の国政と5か年政策について非常に詳細な講義を受けました。参加した学生には中国の政治について理解を深める良い機会となり、講義後には日本の政策決定過程と中国の政策決定過程の相違点などを活発に議論が行われました。

キャンパスアジア第1号学生としKDIS(韓国・ソウル)から清華大学に派遣されているKyun Heo氏や清華の学生を交えてのキャンパスツアーや清華大学での留学生活の紹介なども行われ、学生同士の交流も深まりました。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

上記、KDIスクール(韓国)及び清華大学(北京)での短期研修開催による派遣。

○ 外国人留学生の受入れ

受入れ実績はまだなし。平成24年度秋より受入れ予定。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	C0, K0	C5, K5	C5, K5	C5, K5	C5, K5
中国への受入	J7, K1	J5, K5	J5, K5	J5, K5	J5, K5
韓国への受入	J9, C0	J5, C5	J5, C5	J5, C5	J5, C5

注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 学生説明会を開催

本学の学生にキャンパスアジアを周知し、留学候補生の選出することを目的に、学生説明会を開催しました。

○ キャンパスアジア委員会を発足しました

本学研究支援科長を始めとした教授陣5名で形成するキャンパスアジア委員会を発足し、懸案事項の迅速な検討・解決を目指します。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ キャンパスアジアホームページを立ち上げました

<http://www.grips.ac.jp/jp/campusasia/>

大学の世界展開力強化事業 取組概要 政策研究大学院大学

【構想の名称】(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program)

北東アジア地域における政策研究コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

求められるグローバル人材像として科学的合理性に裏付けられた現実的課題解決能力を涵養したうえで、こうした判断基準と信頼を共有する者同士の強固な人的ネットワークの形成を促す。これにより、日中韓の社会的中核機関の組織的な政策立案・管理運営能力を高度化し、アジアと世界の知的ネットワークにおけるハブを形成する。

【構想の概要】

韓国KDISスクールと清華大学公共管理学院との間で、大学院レベルのダブルディグリーや単位互換制度を利用した留学生交流を行う。本学を含めて3大学ともに、政府機関・民間企業の中核的なミッドキャリア職員を学生として受け入れており、彼らに対して社会科学を中心とした国際水準の公共政策教育を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈KDISサマープログラムに参加した本学の学生〉

○ 指導体制の強化

金融分野を専門とする専任教員を採用し、教育と論文指導体制を充実させた。

○ 学生交流の促進のためのサマー・プログラム・短期研修の開催

本学の日本人学生を含め、本コンソーシアム参加3大学の学生の多くは政府機関等から出向してきているミッドキャリア職員であり、在籍中の時間的余裕が少ない。こうした期間制約の厳しい学生が参加しやすい行事として、キャンパス・アジアの枠組みを最大限に活用し、夏学期のサマープログラム(1ヶ月間)や3日間程度の短期研修、特別セミナーなどを企画・開催した。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈清華大での短期研修やKDIS特別講義の様子〉



○ GRIPS-KDISワークショップをGRIPSで開催(平成24年8月21日～22日)

KDISの教授と学生を迎え、ワークショップを開催(日:25名、韓20名)
企業訪問(トヨタ・岡本硝子)、本学教員による特別講義2コマ、学生交流会を開催

○ KDISサマープログラムに本学学生を派遣(平成24年8月7日～9月7日)

KDISと韓国中央公務員教育院が共催した「グローバル政府職員セミナー」、
現役のOECD職員による開発政策の集中セミナーなどに出席

○ 清華大学での短期研修に本学学生を派遣(平成24年9月26日～9月29日)

清華大学教員による特別講義「中国のNGOの取組み」、「中国の5ヶ年計画」を受講、
清華大学の通常授業を聴講したほか、中国伝統行事を祝う交流会(学生主催)に参加

○ KDIS特別講義をGRIPSで開催(平成24年10月29日)

KDISのNam研究科長による「開発コンセンサス」に関する特別講義、
Jung教授による大学紹介

○ 清華大学特別講義をGRIPSで開催(平成25年1月22日)

清華大学の魏星助教授による「中国の今後の経済発展政策」に関する特別講義、
孟波教授による大学紹介

○ ジョイント・セミナーをKDISで開催(平成25年3月13日～16日)

両学のPh.D学生5名が自身の研究について発表をするPh.D.セミナー、本学教員による特別講義、KDISの通常授業の聴講、
KDISの学生と親睦を深める交流会などを開催

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

KDISサマープログラム及びKDIS・清華大学で開催された短期研修へ派遣

○ 外国人留学生の受入れ

ダブルディグリーによる受入れ及び本学で開催したワークショップによる受入れ

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0, K0	C0, K23	C10, K10	C10, K10	C10, K10
中国(C)での受入	J7, K1	J11, K3	J10, K5	J10, K5	J10, K5
韓国(K)での受入	J9, C0	J20, C0	J10, C5	J10, C5	J10, C5

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

〈日中韓公務員とのグループ討論の様子〉



■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ キャンパス・アジアの事業方針に沿った学則の改正

本事業における協定校からの受入れ学生に対する奨学金に係る運用規定を作成
本学学生が留学し、帰国した際の単位互換に対応するため、学則の単位互換規定を修正

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページやメディア媒体を利用したプロモーション活動

キャンパス・アジアの周知と、将来キャンパス・アジアの候補生となりうる学生母数の増加を
目的に、新たに「参加者の声」を盛り込んだパンフレットを発行した。また、『国際開発ジャーナル』や『自治体国際化フォーラム』、
進研アド『大学院へ行こう』などの雑誌やウェブページにも、参加学生のインタビュー記事などを掲載し、学生の出向元機関も含め
幅広く本事業のねらいや成果が伝わるようなプロモーション活動を行った。さらに、ホームページの随時更新を容易化した。

○ 外務省「日中韓若手公務員交流プログラム」合同ディスカッション・フォーラム(平成25年2月25日)

日中韓の若手公務員15名と本学学生15名が「日中韓3カ国協力の今後」及び「キャンパス・アジア・プログラムの重要性」などの
課題についてグループ討論した。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 政策研究大学院大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program))

北東アジア地域における政策研究コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

求められるグローバル人材像として科学的合理性に裏付けられた現実的課題解決能力を涵養したうえで、こうした判断基準と信頼を共有する者同士の強固な人的ネットワークの形成を促す。これにより、日中韓の社会的中核機関の組織的な政策立案・管理運営能力を高度化し、アジアと世界の知的ネットワークにおけるハブを形成する。

【構想の概要】

韓国KDIスクールと清華大学公共管理学院との間で、大学院レベルのダブルディグリーや単位互換制度を利用した留学生交流を行う。本学を含めて3大学ともに、政府機関・民間企業の中核的なミッドキャリア職員を学生として受け入れており、彼らに対して社会科学を中心とした国際水準の公共政策教育を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈CAMPUS Asia Fortnight (サマープログラム)での集合写真〉

○ 指導体制の強化

キャンパス・アジアの円滑な運営と適切な事業執行のため、4月に組織管理や対外交渉の経験豊富な職員を採用した。また、キャンパス・アジアの円滑な運営及び学生支援の為に、研究助手を募集した。博士号を保有し英語や韓国語によるコミュニケーション能力を持つ等、必要なスキル・技術の点から採用を決定し、7月から着任となった。

○ 学生交流の促進のためのサマー・プログラム・短期研修の開催

本学の日本人学生を含め、本コンソーシアム参加3大学の学生の多くは政府機関等から出向してきているミッドキャリア職員であり、在籍中の時間的余裕が少ない。こうした期間制約の厳しい学生が参加しやすい行事として、キャンパス・アジアの枠組を最大限に活用し、夏学期のCAMPUS Asia Fortnight(サマープログラム)や3日間程度の短期研修を企画・開催した。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈KDIスクールでのPh.Dセミナーの様子〉

○ **CAMPUS Asia Fortnight(サマープログラム)をGRIPSで開催**(平成25年8月12日～22日)
KDIスクールと清華大学の学生を受け入れ、本学の夏学期の通常講義(FDI)の受講、特別講義(7コマ)の聴講、フィールドトリップ(日銀・日本工営)、レセプションを開催(韓:9名、中5名)

○ **清華大学での短期研修に本学学生を派遣**(平成25年10月29日～11月1日)
清華大学の通常講義(3コマ)を聴講したほか、学生交流会に参加(日:8名)

○ **CAMPUS Asia学生国内フィールドトリップを開催**(平成26年1月31日～2月1日)
CAMPUS Asia学生と本学の日本人学生の交流を深めるために、山梨県及び静岡県へのフィールドトリップを実施。山梨県では山梨県観光課にて観光施策についてヒアリング後、観光農園を訪問。静岡県ではヤクルト工場の見学を実施。(キャンパスアジア:5名、日:5名)

○ **ジョイント・セミナーをKDIスクールで開催**(平成26年3月16日～19日)

両学のPh.D学生5名(KDIスクール2名、GRIPS3名)が自身の研究について発表をするPh.D.セミナー、KDIスクールの通常講義の聴講、特別講義の聴講、KDIスクールの学生と親睦を深める交流会などを開催。(キャンパスアジア:4名、日:3名、博士:5名)

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

KDIスクールサマープログラム及びKDIスクール・清華大学で開催された短期研修へ派遣

○ 外国人留学生の受け入れ

ダブルディグリー及び博士課程学生(特別研究学生)の受け入れ他、本学で開催したCAMPUS Asia Fortnight(サマープログラム)への受け入れ

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0, K0	C0, K23	C8, K15	C10, K10	C10, K10
中国(C)での受入	J7, K1	J11, K3	J8, K6	J10, K5	J10, K5
韓国(K)での受入	J9, C0	J20, C0	J16, C4	J10, C5	J10, C5

注)H23～H25は実績、H26以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ MOUの改正

学生交流の機会を広げるため、MOUを改訂した。改訂前は、母校にて最低1学期間を修了しなければ留学できなかったが、この条項を削除した。また、ダブルディグリー以外の留学期間の上限を6か月間から12か月間に延長した。

○ 単位互換申請手続きの改定

単位互換申請の手順を明確にした。また、他大学で修得した単位を本学で互換できない場合の措置として、学生の希望により、成績表への欄外記載ができるようにした。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページやメディア媒体を利用したプロモーション活動

ホームページを見やすく魅力的なものとするため、改修作業を実施。募集の告知や、終了したイベントについても参加者の声や写真を多数掲載し、多くの学生の関心を惹きその参加意欲を高める内容となった。

また、進研アド『大学院へ行こう』のウェブページにも、参加学生のインタビュー記事などを掲載し、学生の出向元機関も含め幅広く本事業のねらいや成果が伝わるようなプロモーション活動を行った。『国際開発ジャーナル』にも記事を掲載し、本学のキャンパス・アジアプログラムの魅力を広く普及させるべく取り組んだ。

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program))

北東アジア地域における政策研究コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

求められるグローバル人材像として科学的合理性に裏付けられた現実的課題解決能力を涵養したうえで、こうした判断基準と信頼を共有する者同士の強固な人的ネットワークの形成を促す。これにより、日中韓の社会的中核機関の組織的な政策立案・管理運営能力を高度化し、アジアと世界の知的ネットワークにおけるハブを形成する。

【構想の概要】

韓国KDISクールと清華大学公共管理学院との間で、大学院レベルのダブルディグリーや単位互換制度を利用した留学生交流を行う。本学を含めて3大学ともに、政府機関・民間企業の中核的なミッドキャリア職員を学生として受け入れており、彼らに対して社会科学を中心とした国際水準の公共政策教育を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 単位互換制度の活用

平成25年12月に他の大学院における修得単位の互換認定等に係る申請・承認手続きが一段と明確化されたことにより、26年10月にダブルディグリーで受け入れた学生も学年歴の早い段階で単位互換を認定することで履修計画の策定を前倒しすることができた。また、単位互換が認められない場合でも本学成績書への欄外記載が可能になり、KDISクールおよび清華大学のサマープログラムに参加して単位を取得した本学学生のうち、希望した2名の学生がその制度を活用した。

〈8月 CAMPUS Asia Fortnight --
開発政策プログラム共催スタディートリップ〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈平成27年3月KDISクール短期研修 --
Ph.Dジョイントセミナー〉

○ KDISクール短期研修(5月)

長期留学への意欲を喚起する目的で9名派遣。講義受講、学生交流を体験させた。

○ CAMPUS Asia Fortnight (サマープログラム)(8月)

KDISスクールと清華大学の学生を受け入れ、本学でサマープログラムを開催。内容は講義の受講、開発政策プログラム共催スタディートリップ&ワークショップ、文化体験など日中韓の学生交流。

○ KDISスクール／清華大学サマープログラム(8月)

講義受講、フィールドトリップなどを盛り込んだ約1か月のプログラムに、KDISスクールへ4名、初のサマープログラム開催であった清華大学へ2名派遣した。

○ 清華大学短期研修(11月)

11名の日本人学生を派遣。講義受講、学生交流会、フィールドトリップなどを行った。



○ The Global Government Officials Seminar on G20 and International Policy J(12月)

KDISスクール主催でG20の取組について学ぶ政府職員を対象としたセミナーに、国家公務員の学生2名を本学から派遣した。

○ 日本人学生初の長期留学の実現(27年2月～5月)

○ KDISスクール短期研修(27年3月)

留学生を含む本学Ph.D学生14名を世宗市に移転したばかりのKDISスクールへ派遣。ジョイントセミナーを開催し、両学の学生(KDISスクール2名、GRIPS3名)が自身の研究について発表した。その他、本学教員による特別講義の受講、フィールドトリップを行った。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

KDISスクール／清華大学サマープログラム、KDISスクール／清華大学短期研修、および公務員対象セミナー

○ 外国人留学生の受入れ

ダブルディグリープログラム、およびCAMPUS Asia Fortnight (サマープログラム)

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0, K0	C0, K23	C8, K12	C4, K12	C10, K10
中国(C)での受入	J7, K1	J11, K3	J8, K6	J13, K9	J10, K4
韓国(K)での受入	J9, C0	J20, C0	J16, C4	J29, C9	J10, C6

注)H23～H26は実績、H27は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 中国語を話すRAの採用

本学在籍学生で英語、中国語を話すRAを採用。受入れ学生の人脈づくりに関与するなど、学生ならではのコミュニケーション能力が役立った。また、英語が通じないことの多い中国での研修において、中国を話せることは大きな言語的サポートとなった。

○ 受入れ校との綿密な連絡

2月には本事業初の長期留学生をKDISスクールに派遣したが、同校コーディネーターと綿密に連絡を取り合いながら手続きを進めたことで、学生が安心して留学できる環境づくりができた。留学開始後も状況確認、情報収集を行い、次に留学の可能性のある学生への検討材料に加えた。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開・成果の普及

○ WEBサイト活用の強化

WEBサイトを通じて最新情報を日英で発信することにより、日本人のみならず、留学生の本プログラムへの興味を引き寄せた。イベントの内容が伝わるよう、イベントごとに報告書、参加者の声、写真を掲載した。また、引き続き大学院進学情報サイト「大学院へ行くこう」でプロモーションを行い複数のフィードバックを受けている。

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 政策研究大学院大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA- I CAMPUS Asia Pilot Program))

北東アジア地域における政策研究コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

求められるグローバル人材像として科学的合理性に裏付けられた現実的課題解決能力を涵養したうえで、こうした判断基準と信頼を共有する者同士の強固な人的ネットワークの形成を促す。これにより、日中韓の社会的中核機関の組織的な政策立案・管理運営能力を高度化し、アジアと世界の知的ネットワークにおけるハブを形成する。

【構想の概要】

韓国KDISクールと清華大学公共管理学院との間で、大学院レベルのダブルディグリーや単位互換制度を利用した留学生交流を行う。本学を含めて3大学ともに、政府機関・民間企業の中核的なミッドキャリア職員を学生として受け入れており、彼らに対して社会科学を中心とした国際水準の公共政策教育を行う。

質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

(留学先の韓国KDISクールにて)

○ 長期の学生受入と派遣

KDISクールからダブルディグリー学生、清華大学から学期単位での特別科目等履修生を受け入れるとともに、本学よりKDISクールへの学期単位での留学を実現させた。受入・派遣は共に正式なAOプロセスを経た留学であり、正規授業を受けることで質の保証を確保した。特に本学からの派遣は、昨年度春学期の学期留学に続いての留学であり、大学の教育の一環としての大学間交流の枠組を本事業を通して形成することができた。



実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

○ CAMPUS Asia Fortnight (サマープログラム) (8月)

KDISクールと清華大学の学生を受入れ、本学でサマープログラムを開催した。内容は講義の受講、日銀見学、本学開発政策プログラム共催サテライトトリップ&ワークショップ、文化体験など日中韓の学生交流。また一部本学の留学生にも開放し、大学全体での学生間ネットワーク構築を実現した。

○ KDISクールサマープログラム(8月)・日本人学生の長期留学(10月~12月)

講義受講、フィールドトリップなどを盛り込んだ約1カ月のプログラムに、本学学生3名を派遣した。また秋学期には、本学の学生1名を長期派遣した。

○ 日中韓合同セミナーの開催(12月)

中韓よりそれぞれ学生5名ずつと教員が本学に集まり、日中韓の学生・教員による合同セミナーを開催した。博士課程学生の研究プレゼンの他、事業の集大成としてこれまでの交流内容を振り返るとともに、学生同士によるラウンドテーブルディスカッションを行い、今後の日中韓の課題や我々の進むべき方向性について話し合った。

〈日中韓合同セミナーにて、真剣に話し合う日中韓の学生達〉

○ 清華大学短期研修(3月)

14名の学生を派遣。講義受講、開催中であつた全国人民代表大会委員でもある教授による講義の聴講、学生交流会、フィールドトリップなどを行った。

○ 事業終了後に向けた新たな交流協定の締結合意

補助金授業終了後の交流活動についての話し合いを進め、新たな交流協定締結に向けての合意を形成した。



交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

KDISクールサマープログラム、KDISクール秋学期留学、清華大学短期研修

○ 外国人留学生の受入れ

ダブルディグリープログラム、学期単位での特別科目等履修生、CAMPUS Asia Fortnight (サマープログラム)、日中韓合同セミナー

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0, K0	C0, K23	C8, K12	C4, K12	C12, K14
中国(C)での受入	J7, K1	J11, K3	J8, K6	J13, K9	J14, K12
韓国(K)での受入	J9, C0	J20, C0	J16, C4	J30, C9	J4, C6

日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 多様なプログラムの提供、プログラムの周知強化

日中韓の学生の交流機会を増やすために、短期から長期まで様々な形態の交流機会を提供し、入学ガイダンス等で積極的な広報をコンソーシアムで行うことで、学生の派遣・留学を促進した。また日本人学生には入学時に英語科目の履修を学長より呼びかけたり、実際に留学した学生による報告会プレゼンの機会を設ける等、留学への意識を高めさせた。

構想の実施に伴う大学の国際化の状況・情報の公開・成果の普及

○ 教育の一環としての海外留学の実現

本学は海外からの留学生が学生の2/3を占めるが、海外留学を志す日本人学生は少ない中、今年度本事業を通じて本学としては二人目となる、日本人学生の学期単位海外留学が大学の教育の一環として実現できたことは、日本人学生の送り出しという観点から、大学の国際化に大きく貢献した。

○ WEBサイト活用の強化

WEBサイトを通じて最新情報を日英で発信することで、日本人や留学生に本プログラムへの関心をもってもらった。